

# グローバル・コモンズ（サイバー空間、宇宙、北極海） における日米同盟の新しい課題

平成27年3月



公益財団法人日本国際問題研究所  
The Japan Institute of International Affairs

## はしがき

本報告書は、当研究所の平成 26 年度外務省外交・安全保障研究事業（調査研究事業）のひとつである「グローバル・コモンズ（サイバー空間、宇宙、北極海）における日米同盟の新しい課題」の研究成果として取りまとめたものです。

本プロジェクトでは、サイバー空間、宇宙、北極海という世界共通の課題（グローバル・コモンズ）の現状を分析し、これら「コモンズ」の安全を確保するための日米同盟・日米連携のあり方、また日本が産・官・学を合わせた総合的な強み（経済力、技術力、外交・国際的な影響力、自衛隊の能力等）を活かしながら果たすべき役割等を検討し、採るべき施策について提言を行っています。

安全保障空間は、技術革新や国際社会の構造変化により、大きな変容を遂げつつあります。サイバー空間は、今や経済活動と軍事オペレーションの双方にとって不可欠の領域になっている一方で、国家及び犯罪グループによる攻撃の脅威に常にさらされています。また、宇宙空間は、かつての米ソ冷戦時代は 2 つの超大国が軍事利用を独占していましたが、近年では台頭著しい中国がこれにチャレンジする状況に至っています。さらに、近年における地球温暖化の進行は、従来「未到の海域」であった北極海を経済および軍事の両面にわたって利用可能なものとしつつあります。これらの空間は、世界の平和と繁栄のために必要不可欠な公共圏である「グローバル・コモンズ」としての重要性を増してきており、これらの空間の安全を確保し、脅威を防ぎ、国際的なガバナンスを確立することがますます喫緊の課題となってきたという点で、共通する性格を有しています。

日米同盟は過去 50 年以上の長きにわたって日米の安全、世界の平和と安定の確保に貢献してきましたが、上記のような戦略環境の変化に伴い、新たな課題に直面しています。「グローバル・コモンズ」の安全を確保し、世界の繁栄に貢献することは、日米共通の責務であると共に、世界の中で日本がより積極的な役割を果たすべき課題でもあり、本報告書ではこうした議題に対する解決策についても議論がなされています。

なお、ここに表明されている見解はすべて参加された各研究者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、個々の研究成果が今後の日本外交を巡る議論に資することを心より期待するものであります。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

平成 27 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 野上 義二

## 研究体制

主査：	星野 俊也	大阪大学副学長（海外展開担当）兼 大学院国際公共政策研究科教授
委員：	池島 大策	早稲田大学国際教養学部教授
	金田 秀昭	日本国際問題研究所客員研究員
	川口 貴久	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社主任研究員
	鈴木 一人	北海道大学大学院法学研究科教授
	土屋 大洋	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
	福島 康仁	防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室教官
委員兼幹事：	飯島 俊郎	日本国際問題研究所副所長
	秋山 信将	一橋大学大学院法学研究科教授 日本国際問題研究所客員研究員
	宮田 智之	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	松井 菜海	日本国際問題研究所研究助手

(敬称略、五十音順)

## 目 次

第1章 総論：「アクロス・ザ・ユニバース」の安全保障 ーグローバル・コモンズにおける「普遍的な平和」とはー	星野 俊也 ……1
第2章 サイバー攻撃と自衛権:重要インフラ攻撃とグレーゾーン事態	川口 貴久 ……11
第3章 グローバル・コモンズとしてのサイバースペースの課題	土屋 大洋 ……27
第4章 安全保障分野における宇宙協力 ーオバマ政権の取り組みと今後の日米協力ー	福島 康仁 ……39
第5章 日本の安全保障宇宙利用の拡大と日米同盟	鈴木 一人 ……51
第6章 北極海と日米同盟（その2） ー注目を要する安全保障・防衛面での懸念への対応ー	金田 秀昭 ……61
第7章 グローバル・コモンズとしての北極海：米国の政策と日本の対応	池島 大策 ……73
第8章 政策提言	秋山 信将・宮田 智之 ……87